

報告【関西支部総会『集い』 まりんてい(大阪)にて開催】

2012.9.22

関西支部の活動については、2011年11月関西で開催された全体総会(同窓会)をきっかけに、毎年1回はやろう!を合言葉に今年の9月22日に『集い』という名目で開催しました。

1期生から42期生までの計66名、その中には中尾現校長(2M卒)も馳せ参じられました。ゲームやプロのサックス奏者の演奏などで、世代を超えた繋がりを意識して進行了ましたが、20期生以降の参加者が5名だったのは残念でなりません。一方

で、10期生代の中から会をもっと盛り上げよう!の気運が芽生えた事は嬉しい限りです。今後も毎年1回、必ず開催します。

関西在住の方だけでなくOBであればどなたでもWelcomeです。皆様のご参加をお待ちしております。

(8M 関西支部長 河原記)

連絡先: 河原(TEL: 090-2110-0976)

メルアド: kawahara@tachibana.co.jp



関西支部総会 まりんていにて

報告【福岡支部総会 冷泉閣ホテル川端にて開催】

2012.10.27

本年度は佐世保にて母校の50周年記念行事を2週間後にひかえ小規模での実施となりました。10月27日(土)に冷泉閣ホテル川端にて開催、1、2、3、9期からの参加者がありました。(1M 福岡支部長 富田記)

福岡には同窓会を基盤に運営され、佐世保に縁あるひとのコミュニケーションの場である『ふくおか佐世保会』があります。その広報誌の『とびうお』に母校創立50周年の記事を1面全面に掲載していただきました。

(福岡支部総会の写真は入手できませんでした、福岡支部から「ふくおか佐世保会」の記事を是非取り上げて欲しいとの要請で掲載しました)

佐世保高専が創立50周年を迎えました

【佐世保市に決定のいきさつ】
当時の山中市長が荒木文部大臣の談話の中で、「国立工業専科大学設置構想」を昭和35年9月に察知し、即ち金子三三代議員(前長崎県知事の御妻)を経由して池田総理に陳情したところ、佐世保市議会が特別委員会を設けて誘致活動を行ったことが設置につながったと考えられています。「専科大学から「高専」と変わって法律が決定したのが昭和36年6月です。40数都市の誘致活動の結果、全国12カ所・九州で1カ所のうちに選ばれたことが佐世保市民の喜びであったと当時の新聞報道からうかがえます。山中市長のすばやい動きには長崎大学水産学部が昭和36年に長崎市に移転し、佐世保市に大学がなくなるという危機感が背景にあったといわれています。

【開校までの準備】
佐世保高専の設置決定は昭和37年1月、開校は同年4月と現在では考えられない超スピードでした。

創設について九州大学、長崎大学、長崎県及び佐世保市が連携して準備が進められました。開設にあたって佐世保市が仮校舎として市立高校(万徳町)、学生寮として北病院(木分院)(柚木町)を提供し、入学試験は佐世保北高等学校を会場とし、採点は市内各高校の各科目の先生に委嘱されました。第1回入試は「入試問題がありましたが、文部省は予定通り入試を行うことを決定し、3月5日に合格発表が行われました。(創立当時の情報は「佐世保高専10年史」より引用しました)

【開校そして50年後のいま】
機械工学科2クラス・電気工学科1クラスで開校しましたが、昭和41年に工業化学科1クラスを開校、現在は、機械工学科・電気電子工学科、電子制御工学科・物質工学科の4クラスになっています。国立12でスタートした高専も現在は、国立51、公立3、私立3となりました。

【50年のふりかえり】
機械、電気それぞれの先生方が必死に就職先を世話していただいた昭和42年と比べると隔世の感があります。求人倍率(当時4.2倍、現在1.4倍)が増えたこともですが、進学者が三分の一を超えたことに、「世の流れ」を感じます。しかし現在の中尾校長が「産業界からの高専卒の要請は大きいものがある」といつておられたことが卒業生として心地よい響きに聞こえました。

▲学生寮(柚木)から専用バスで通学

▲第一期生入学式